

## 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 082

(2025/26年度 USDA米国農務省 5月12日発表)

## ① 2025/26新穀物年度の世界穀物生産見通しは概ね順調、大豆含めた穀物総生産高は33億トと史上最高を予測

この5月から穀物年度は新年度に入ったが、品目別需給見通しは概ね順調である。具体的には下記に整理してあるが小麦生産量は主産国であるEU/インド/中国/ロシア/カナダ等で増加することから8億トを超え史上最高見通し。とうもろこしも最大生産国米国ははじめウクライナ/アルゼンチン等で増産が期待出来ることから昨年を約4千万ト超える12.6億トとなりこれも史上最高見通し。コメはインド/バンラデシュ/中国で増産されることから5.4億トと昨年より微増しこれまた史上最高見通し。おまけに昨年飛躍的に生産拡大し4億トを超えてた大豆はブラジル/パラグアイ等が好調で4.3億トとこれまた史上最高見通し。今後の変動はあるにしてもこれで史上最高の4重奏である。特に国別で見た場合は、小麦では昨年早魃被害で減産したEUが136百万トと昨年より15百万ト増。とうもろこしでは米国が大豆からの転作増で初めて4億トを超え401百万トと昨年より24百万ト増。大豆はブラジルが175百万トと昨年より6百万ト増加し全体生産を押し上げている。その結果、大豆を含めた穀物全体生産量は33億ト（29億ト+4億ト）と史上最高を予測している。

## ② トランプ関税による世界穀物貿易と市場価格の動向は現状大きな変動は無いが、先行きは不透明…

米国は4/2に全ての国・地域に一律10%の関税を課し同時に75カ国に貿易不均衡度合を基準に更に「相互関税」措置を取るとしたが4/9には突如90日間の実施延期発表により一時事態は鎮静。しかし最大の貿易赤字国である中国には145%の関税を課し、中国はそれに対し125%の報復関税を発表し泥沼状態になったがその後4/12に其々115%削減したのは周知の通り。この様な中で、今回のUSDA発表は下記に示す通り世界穀物貿易（輸出量）は生産/消費の拡大とともに順調に伸び7億ト（5.1億ト+1.9億ト）に達する見通しである。これを見ればトランプ関税の影響はカウントされていない。特に注目されるのは、米国産中国向け大豆輸出の多くがブラジル産にシフトされる懸念であるが、現在のところ米国産大豆輸出見通しは別表の通り49百万トと前年50百万ト比微減となっている。一方ブラジル大豆生産/輸出見通しは175/112百万トと其々前年比6百万ト増加しているが、必ずしもこの輸出増が中国向けに米国産に置き換わるとは言いきれない。いずれにせよ、農業分野での中国の強力な対米交渉カードである大豆（輸入量25百万ト前後）の取り扱い、今後の両国の関税交渉の行方によって左右されるのは間違いない。

## 1、世界穀物需給の概要（大豆除く）

① 生産量：	2,897百万ト（前年比2.0%	増 ↑、前月比2.4%	増 ↑）
② 消費量：	2,907百万ト（前年比1.3%	増 ↑、前月比1.6%	増 ↑）
③ 貿易量：	512百万ト（前年比3.6%	増 ↑、前月比3.9%	増 ↑）

## 2、小麦

① 生産量：	809百万ト（前年比1.1%	増 ↑、前月比1.5%	増 ↑）
② 消費量：	808百万ト（前年比0.5%	増 ↑、前月比0.3%	増 ↑）
③ 輸出量：	213百万ト（前年比3.3%	増 ↑、前月比3.0%	増 ↑）
④ 在庫量：	266百万ト（前年比0.2%	増 ↑、前月比1.9%	増 ↑） /（在庫率33%）うち中国124百万ト、占有率47%
⑤ 価格：	<b>\$5.27/Bu</b> （前年\$6.06/Bu / 前月\$5.29/Bu）と前月比\$0.02 下落。		

⑥ 概況：小麦生産量は、米国/豪州等で若干減少するがEU/インド/ロシア等で増加し前年比約1千万ト増の8億トを超えて史上最高を記録する見通し。消費量もインド等で増加し8億トを超える見通し。輸出量は生産/消費量増加の結果を受け2億トを超え順調。期末在庫量は採算消費が均衡していることから前年から変動なく2.7億ト。価格はトランプ関税の影響なく前月比変動なし。

## 3、とうもろこし

① 生産量：	1,265百万ト（前年比3.6%	増 ↑、前月比4.1%	増 ↑）
② 消費量：	1,274百万ト（前年比1.9%	増 ↑、前月比2.6%	増 ↑）
③ 輸出量：	196百万ト（前年比3.4%	増 ↑、前月比3.8%	増 ↑）
④ 在庫量：	278百万ト（前年比3.3%	減 ↓、前月比3.4%	減 ↓） /（在庫率22%）うち中国182百万ト、占有率66%
⑤ 価格：	<b>\$4.61/Bu</b> （前年\$4.47/Bu / 前月\$4.60/Bu）と前月比\$0.01 上昇。		

⑥ 概況：世界生産量は主産地である米国/ウクライナ/アルゼンチン等で増加することから前年比約4千万ト増の12.7億トと史上最高を記録する見通し。消費量も生産と同様に中国/米国で増加することから前年比約7千万ト増の12.7億トの見通し。輸出量は2億トに近づいている。期末在庫は消費が生産を上回る為前年比1千万ト減の見通し。価格は米国の相互関税90日延期を受け変動なし。

## 4、大豆

① 生産量：	427百万ト（前年比1.4%	増 ↑、前月比1.4%	増 ↑）
② 消費量：	424百万ト（前年比3.4%	増 ↑、前月比3.6%	増 ↑）
③ 輸出量：	188百万ト（前年比4.2%	増 ↑、前月比3.6%	増 ↑）
④ 在庫量：	124百万ト（前年比0.9%	増 ↑、前月比1.5%	増 ↑） /（在庫率29%）うちBRA34/ARG26百万ト
⑤ 価格：	<b>\$10.49/Bu</b> （前年\$12.02/Bu / 前月\$9.77/Bu）と前月比\$0.72 上昇。		

⑥ 概況：世界生産量は、米国/アルゼンチンで減少するがブラジル/ウルグアイ等の増加から約7百万ト微増し昨年を引き続き史上最高を記録する見通し。消費量は中国の増加から約1千万ト増加しほぼ生産量と均衡する見通し。輸出量は底上げされ約7百万ト増加し1.9億トととうもろこし輸出量に近づいている。価格は相互関税の影響から一時9ドル台に下落したが90日間延期で\$10台回復。

# 世界の穀物・大豆等の需給

2025年5月12日  
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2023/24	2,823	3,616	516	2,820	796		
	2024/25	2,839	3,636	494	2,869	767		
	2024/25	4月	2,828	3,622	492	2,862	760	
	2025/26	5月	2,897	3,663	512	2,907	756	
小麦	2023/24	792	1,067	222	798	269		
	2024/25	800	1,069	206	804	265		
	2024/25	4月	797	1,066	207	805	261	
	2025/26	5月	809	1,074	213	808	266	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2023/24	1,507	1,844	237	1,497	347		
	2024/25	1,502	1,849	227	1,533	316		
	2024/25	4月	1,495	1,840	225	1,524	316	
	2025/26	5月	1,550	1,866	238	1,561	305	
米	2023/24	524	705	57	525	180		
	2024/25	538	718	61	533	185		
	2024/25	4月	536	715	61	532	183	
	2025/26	5月	539	724	61	539	185	
大豆	2023/24	397	499	178	383	115		
	2024/25	421	536	181	413	123		
	2024/25	4月	421	533	182	409	124	
	2025/26	5月	427	550	188	424	126	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	4月	314.33	1,215.10	182.09	1,241.78	188.68	287.65
	5月	287.29	1,264.98	187.48	1,274.43	195.81	277.84
アメリカ	4月	44.79	377.63	0.64	321.07	64.77	37.22
	5月	35.95	401.85	0.64	324.75	67.95	45.73
アルゼンチン	4月	2.68	50.00	0.01	14.30	36.00	2.38
	5月	2.38	53.00	0.01	15.60	37.00	2.79
ブラジル	4月	7.48	126.00	1.50	88.00	44.00	2.98
	5月	5.98	131.00	1.60	93.00	43.00	2.58
EU	4月	7.31	59.31	20.00	77.40	2.50	6.73
	5月	6.33	60.00	20.50	77.80	3.00	6.03
日本	4月	1.30	0.02	15.30	15.35	0.00	1.27
	5月	1.27	0.02	15.50	15.50	0.00	1.29
中国	4月	211.29	294.92	8.00	313.00	0.02	201.18
	5月	198.18	295.00	10.00	321.00	0.02	182.16
ロシア	4月	0.76	14.00	0.05	10.60	3.30	0.91
	5月	0.91	15.00	0.05	11.20	3.60	1.16
ウクライナ	4月	1.07	26.80	0.02	5.15	22.00	0.74
	5月	0.31	30.50	0.01	6.23	24.00	0.60

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	4月	115.27	420.58	179.41	410.67	182.12	122.47
	5月	123.18	426.82	186.82	424.05	188.43	124.33
アメリカ	4月	9.32	118.84	0.68	68.96	49.67	10.21
	5月	9.53	118.12	0.54	70.76	49.40	8.03
アルゼンチン	4月	24.05	49.00	6.20	50.10	4.50	24.65
	5月	24.75	48.50	7.20	50.50	4.50	25.45
ブラジル	4月	29.76	169.00	0.15	61.10	105.50	32.31
	5月	33.31	175.00	0.15	62.30	112.00	34.16
中国	4月	43.31	20.65	109.00	128.90	0.10	43.96
	5月	43.96	21.00	112.00	133.00	0.10	43.86
EU	4月	1.28	2.92	14.60	16.52	0.30	1.98
	5月	1.98	2.95	14.30	16.82	0.30	2.11

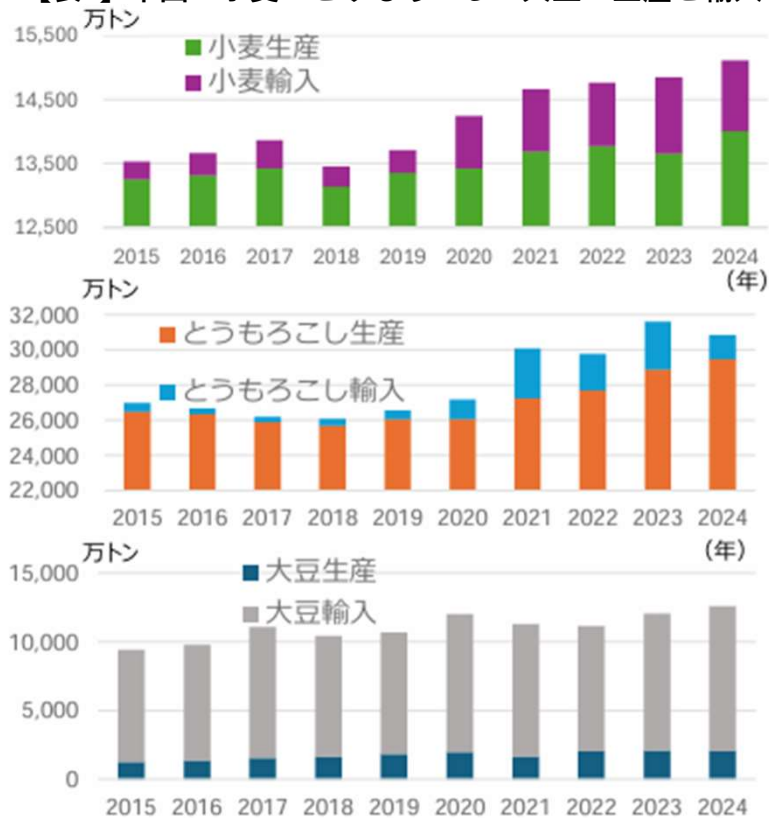
世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	4月	269.06	796.85	198.84	805.20	206.82	260.70
	5月	265.21	808.52	209.65	808.00	212.99	265.73
アメリカ	4月	18.95	53.65	4.08	31.34	22.32	23.03
	5月	22.90	52.28	3.27	31.54	21.77	25.12
アルゼンチン	4月	4.54	18.54	0.01	7.15	11.50	4.44
	5月	4.94	20.00	0.01	7.30	13.00	4.65
オーストラリア	4月	2.91	34.11	0.20	8.00	25.50	3.72
	5月	4.22	31.00	0.20	8.10	23.00	4.32
カナダ	4月	4.58	34.96	0.55	9.50	26.50	4.09
	5月	4.09	36.00	0.55	9.25	27.00	4.39
EU	4月	15.82	121.02	10.70	109.75	26.50	11.29
	5月	12.36	136.00	9.50	111.00	34.00	12.86
中国	4月	134.50	140.10	3.50	150.00	1.00	127.10
	5月	126.90	142.00	6.00	150.00	1.00	123.90
インド	4月	7.50	113.29	0.20	110.24	0.25	10.50
	5月	12.00	117.00	0.25	112.50	0.25	16.50
ロシア	4月	11.69	81.60	0.30	38.25	44.00	11.34
	5月	11.59	83.00	0.30	38.50	45.00	11.39
ウクライナ	4月	0.71	23.40	0.08	6.70	16.00	1.49
	5月	1.49	23.00	0.10	6.60	16.50	1.49

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。  
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

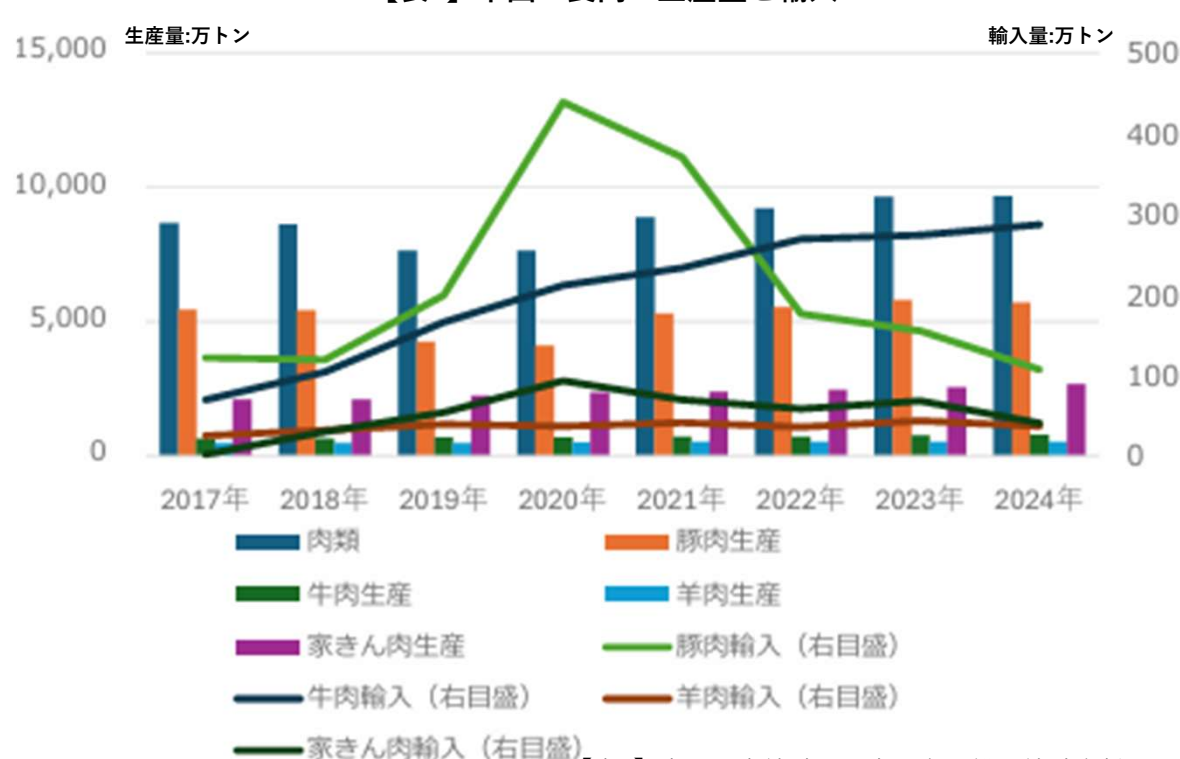
# 世界の穀物輸出を牽引するとうもろこし生産拡大と食肉需要の動向(5)

- ① **世界の穀物と食肉市場に於ける中国の存在感は圧倒的**…先月号では「2032年までの世界食料需給見通し」の中で世界経済の伸長と人口増の中で穀物生産は2007年比10億トンの増の31億トンまで拡大し、同時に食肉需要も同年比約1.1億トンの増の3.5億トンまで拡大していく流れを説明した。この中で**最も大きな牽引要因はやはり中国**である。この**存在感は極めて大きい**。
- ② **中国の穀物生産量は史上初めて7億トンに到達**…[表1]は2024年の中国の小麦/とうもろこし/大豆の生産と輸入数量について2015年からの10年間の推移をまとめたものであるが、大豆を含めた穀物の生産数量は大きく拡大し24年のイモ類を含めた総生産量は**初めて7億トンを達成**。具体的には小麦1.4億トン/とうもろこし2.9億トン/コメ2億トンと**10年連続の豊作**であり、この間の年平均増加率は約2%であった。一方、国内需要は生産を上回り大豆は輸入政策への転換の結果世界貿易量の約65%の年間1億トンの輸入、小麦は約2千万トン、トウモロコシは最大の23年度で約3千万トン輸入と世界市場の大きなインパクトを与える形になった。しかし食用穀物の自給を掲げる中国は24-30年の7か年の取り組みとして「**新たな食糧5千万トン生産能力向上活動**」を展開し栽培面積安定と単収向上を推進。併せて農民への「**最低買付価格制度**」導入で**小麦輸入量は1千万トンまで半減**、同様に**とうもろこし輸入量も13百万トンと半減**するに至った。
- ③ **中国の食肉生産量は1億トンに迫り世界シェア約30%、特に豚肉は5千万トンを超え世界シェアは55%と圧倒的**…[表2]は中国の食肉生産と輸入量を2017-24年までグラフ化したものであるが穀物の生産/消費量と同様に中国の**世界市場に占める割合は圧倒的**である。ある意味14億人(世界人口の約17%)の中国が**世界の食糧を爆食**している。表を見ると24年の**豚肉生産量は約57百万トンと世界シェア55%**。2018-20年にかけて発生したアフリカ豚熱(ASF)によって4千万トン程度まで縮小したレベルから生産能力管理や大規模養豚企業を中核とした供給体制を推進し生産を回復/拡大。また、家禽肉生産も確実に伸び24年には**約27百万トンと世界シェア約25%**まで拡大。牛肉生産量は780万トン(輸入約3百万トン弱)とその規模や構造は他畜種とは様相を異にしている。中国政府の食肉自給率目標は**豚肉95%、牛/羊は85%、家禽肉は100%**と設定し遺伝子改良/育種繁殖体制の強化を推進している。
- ④ **中国の食を支える穀物生産量と配合飼料生産量は世界トップ!**…表1で示した様に中国の穀類生産量は約7億トン、それに大豆等を含めた輸入穀類を含めればその**総消費量は8億5千万トン**近くとなり、世界の大豆も含めた穀物生産量32億トンの**約25%**を占めその動向から目を離せない。また、中国の**配合飼料生産量は約2.6億トン**と世界生産量12億トンの約22%、世界TOP10の配合飼料メーカーの中に「**新希望集団**」等5社が軒を連ねており約1億トンの食肉生産を支えている。このことは世界の**海上穀物物流約7億トンにも連動**し、米国/ブラジルの2大穀物輸出国を軸に中国の動向が注目されている。(続く)

【表1】 中国の小麦・とうもろこし・大豆の生産と輸入



【表2】 中国の食肉の生産量と輸入



【表1】 中国国家統計局、中国海関総署統計資料より作成

【表2】 生産量は国家統計局、輸入量は海関総署より作成